

令和 2 年救助統計

北見地区消防組合

目次

1	救助業務の概要・救助出動の状況	… P 1
2	地区別救助事案発生件数	… P 2 ～ 3
3	救助活動の状況（活動時間推移）	… P 4
4	医師要請及びドクターカー・ヘリ要請の状況	… P 5
5	救出された要救助者の傷病程度	… P 6
6	交通事故の出動状況	… P 7
7	水難事故の出動状況	… P 8
8	風水害等自然災害の出動状況	… P 9
9	機械による事故の出動状況	… P 10
10	建物等による事故の出動状況	… P 11
11	ガス及び酸欠事故の出動状況	… P 12
12	その他の事故の出動状況	… P 13

1 救助業務の概要

救助業務とは、火災、交通事故、水難事故及び地域の特殊性に応じた自然災害などから、生命、身体の危険を排除する一連の活動であり、迅速かつ安全確実な対応が求められる。

北見地区消防組合は、石北峠からオホーツク海沿岸まで東西110km、面積2145.63㎡と広大な管轄エリアを有しており、このような地域実情に合わせ、各車両に配備されている救助資器材で救助業務に対応している。

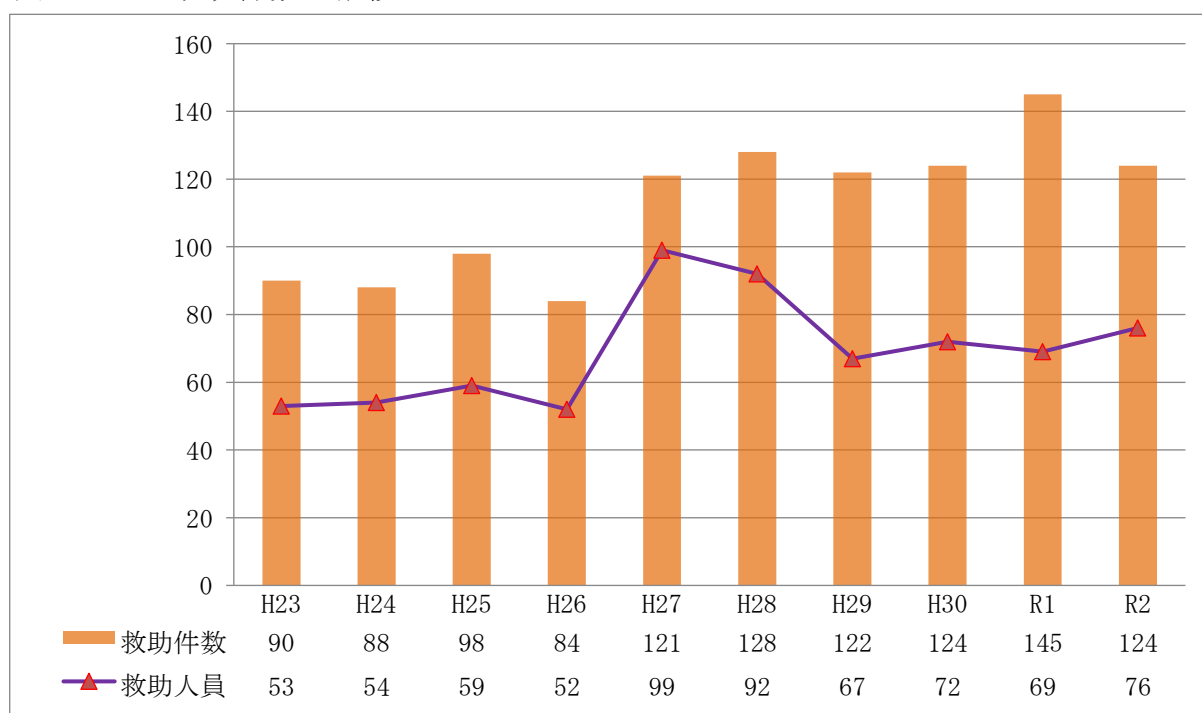
また、近年は北海道胆振東部地震、広島土砂災害、九州北部豪雨など、複雑多様化、広域化する災害が各地で発生しており、いつどのような災害が発生しても対応できる救助体制の強化を目的に、令和2年4月1日に特別救助隊を発隊し、併せて地域実情に合わせた初動体制強化を図るため救助工作車を更新した。

救助出動の状況（出動件数、救助人数の推移）

北見地区消防組合の救助出動件数は124件で、前年と比較して21件減少しており、救助人数76人で前年と比較して7人の増加となっている。

（図1－1）

図1－1 救助件数の推移



2 地区別救助事案発生件数

令和2年中の救助出動件数は124件。前年と比較し21件減少している。
(表2-1) (表2-2)

建物による事故が50.0%、交通事故が35.5%を占め、次に水難事故が4.9%、火災(建物)による事故とその他の事故が3.2%、ガス酸欠事故が2.4%、機械による事故が0.8%となっている。(図2-1)

表2-1 構成市町別救助事案発生件数

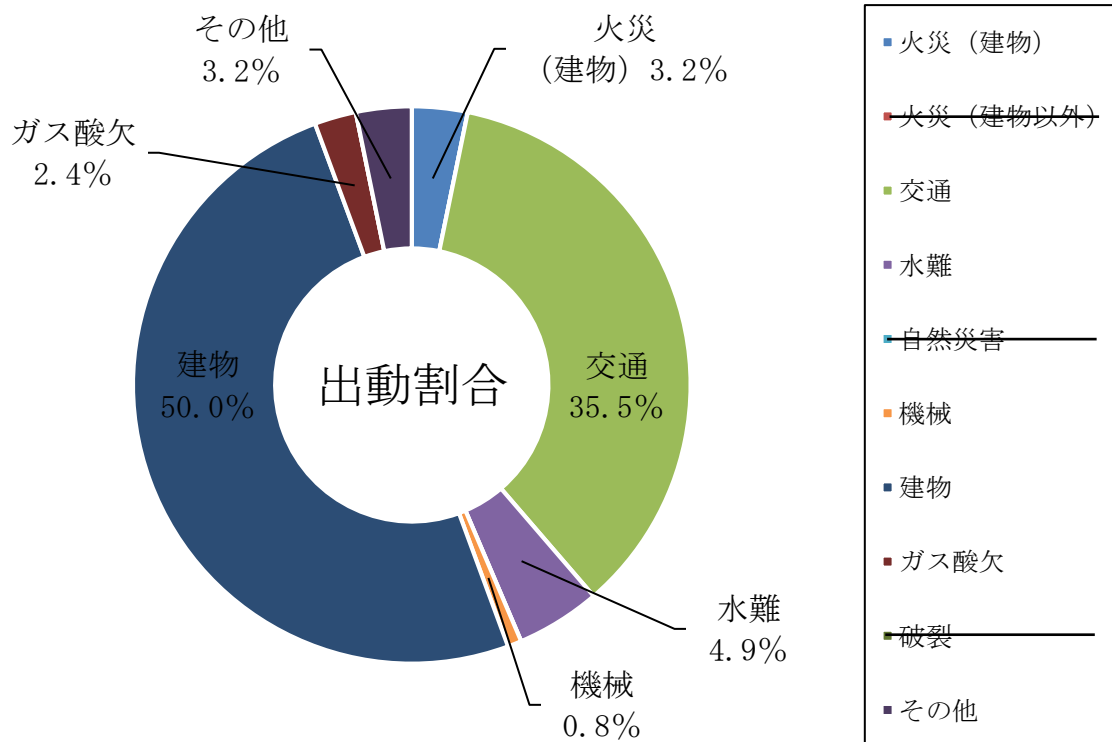
事故種別 構成市町別		火災		交通	水難	災害自然	機械	建物	ガス酸欠	破裂	その他	計
		建物	建物以外									
合計	出動件数	4		44	6		1	62	3		4	124
	増減数		△1	1	2		△3	△6	△4		△10	△21
	活動件数	4		27	4			44	2		3	84
	増減数		△1	3			△3	6	△2		△4	△1
	救助人数	2		33	3			34	2		2	76
	増減数	2	△1	10			△3	7	△3		△5	7
北見	出動件数	4		42	6			61	2		3	118
	増減数		△1	3	2		△4	△2	△4		△10	△16
	活動件数	4		26	4			43	1		2	80
	増減数		△1	3			△3	7	△2		△5	△1
	救助人数	2		32	3			33	1		1	72
	増減数	2	△1	10			△3	6	△3		△6	5
戸置	出動件数			1								1
	増減数			△1				△1	△1			△3
	活動件数			1								1
	増減数			1					△1			0
	救助人数			1								1
	増減数			1								1
子訓	出動件数			1			1	1	1		1	5
	増減数			△1			1	△3	1			△2
	活動件数							1	1		1	3
	増減数			△1				△1	1		1	0
	救助人数							1	1		1	3
	増減数			△1					1		1	1
府管外	出動件数			2								2
	増減数			1								1
	活動件数											
	増減数											
	救助人数											
	増減数											

※組合内の出動件数につき、管外の出動は合計に含めないものとする。

表 2 - 2 北見市自治区別救助事案発生件数

事故種別 自治区別		火 災		交 通	水 難	災 害 然 然	機 械	建 物	酸 ガ 欠 ス	破 裂	そ の 他	計
		建物	建物以外									
北見	出動件数	4		28	4			55	2		2	95
	活動件数	4		16	3			38	1		1	63
	救助人数	2		20	2			30	1		0	55
野呂	出動件数			5				1				6
	活動件数			4				1				5
	救助人数			4				1				5
常呂	出動件数			8	2			4			1	15
	活動件数			5	1			3			1	10
	救助人数			7	1			1			1	10
留辺蘂	出動件数			1				1				2
	活動件数			1				1				2
	救助人数			1				1				2

図 2 - 1 事故種別出動割合



3 救助活動の状況（活動時間推移）

令和2年中の救助活動有りの件数は84件。前年と比較し1件減少している。現場到着の平均時間は6.0分（最先着隊の到着、救急隊含む）、救出時間は平均8.5分を要した。（図3-1）（図3-2）

図3-1 現場到着平均時間割合

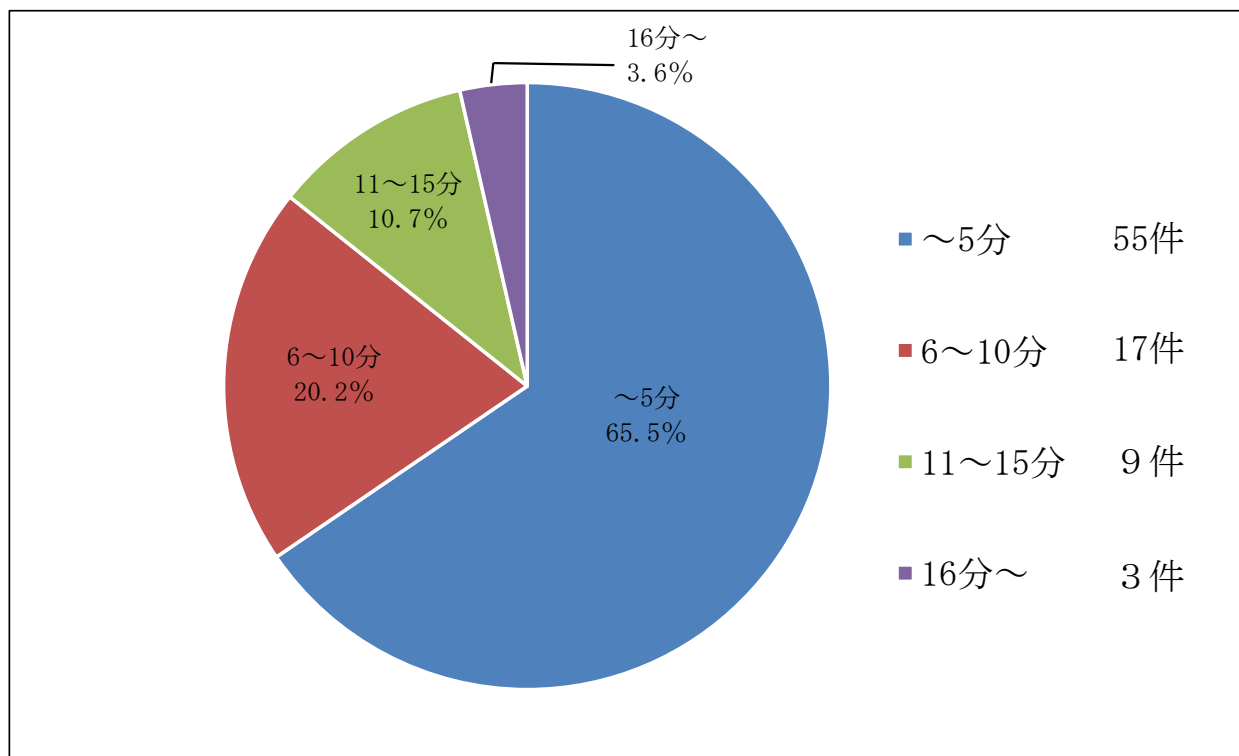
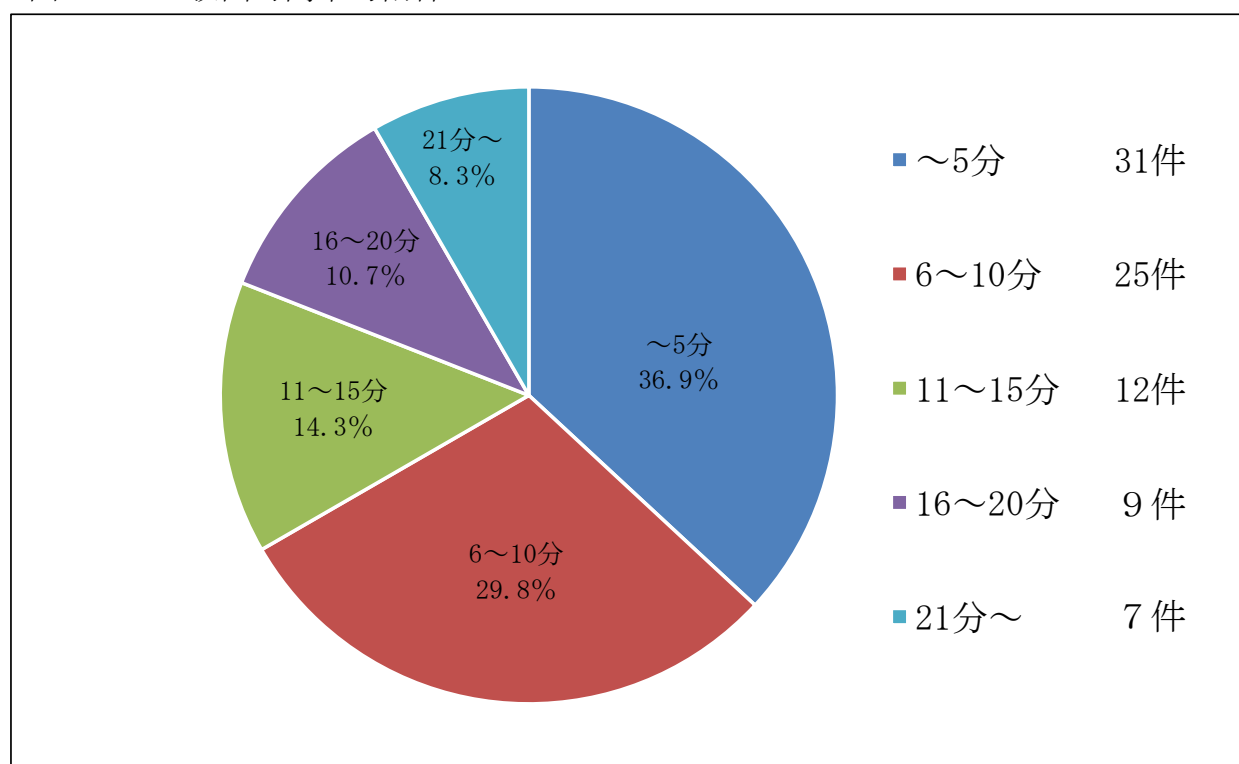


図3-2 救出時間平均割合



4 医師要請及びドクターカー・ヘリ要請の状況

令和2年中の救助出動事案に関わるドクターカー要請は3件。ドクターヘリ要請は2件。要救助者をいち早く医師の管理下におくため、天候や地理的な条件を考慮して早期にドクターカー又はドクターヘリを要請する必要がある。

(図4-1) なお、医師搬送はドクターカーのみであった。

医師要請回数及び搬送回数(表4-1)、ドクターヘリ要請回数及び搬送回数(表4-2)、防災ヘリ要請回数及び搬送回数(表4-3)は、下表のとおりである。

図4-1 救助事案に関わる医師要請状況

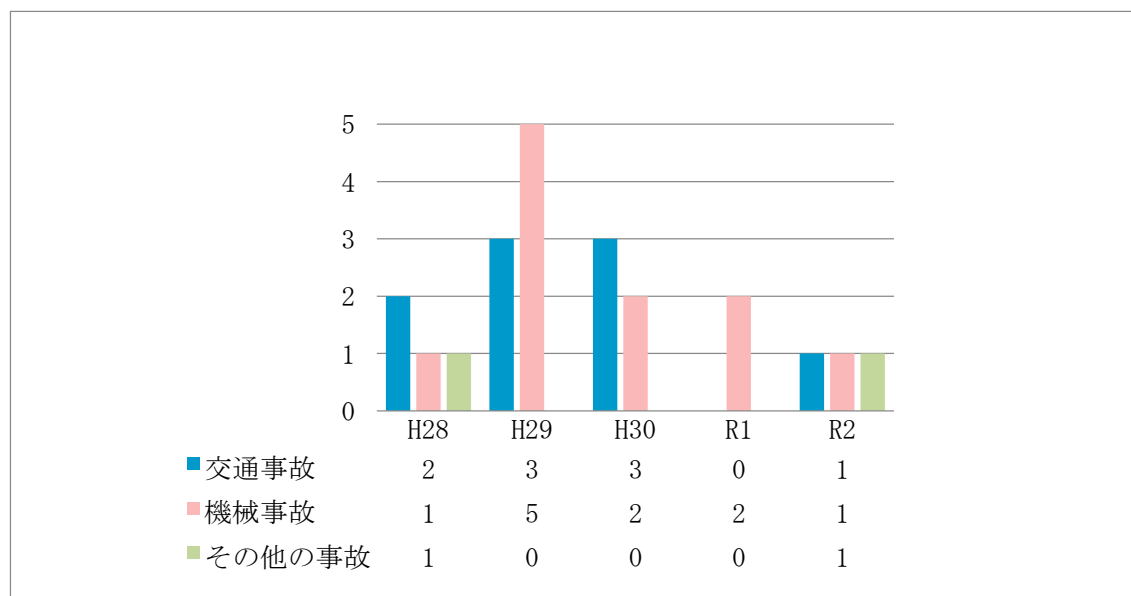


表4-1 医師要請回数及び搬送回数

	H28	H29	H30	R1	R2
医師要請回数	4	8	5	2	3
医師搬送回数	4	5	4	1	1

表4-2 Dr.ヘリ要請回数及び搬送回数

	H28	H29	H30	R1	R2
Dr.ヘリ要請回数	1	0	1	0	2
Dr.ヘリ搬送回数	1	0	0	0	0

表4-3 防災ヘリ要請回数及び搬送回数

	H28	H29	H30	R1	R2
防災ヘリ要請回数	0	1	0	0	0
防災ヘリ搬送回数	0	0	0	0	0

5 救出された要救助者の傷病程度

令和2年中の救出された要救助者は76人、交通事故43.4%、建物等による事故44.8%で、全体の約90%を占めている。（図5－1）

死亡、重症、中等症の傷病者の割合の合計は50%、入院加療を必要としない軽症者は約40%となっている。（表5－1）

図5－1 災害別要救助者数割合

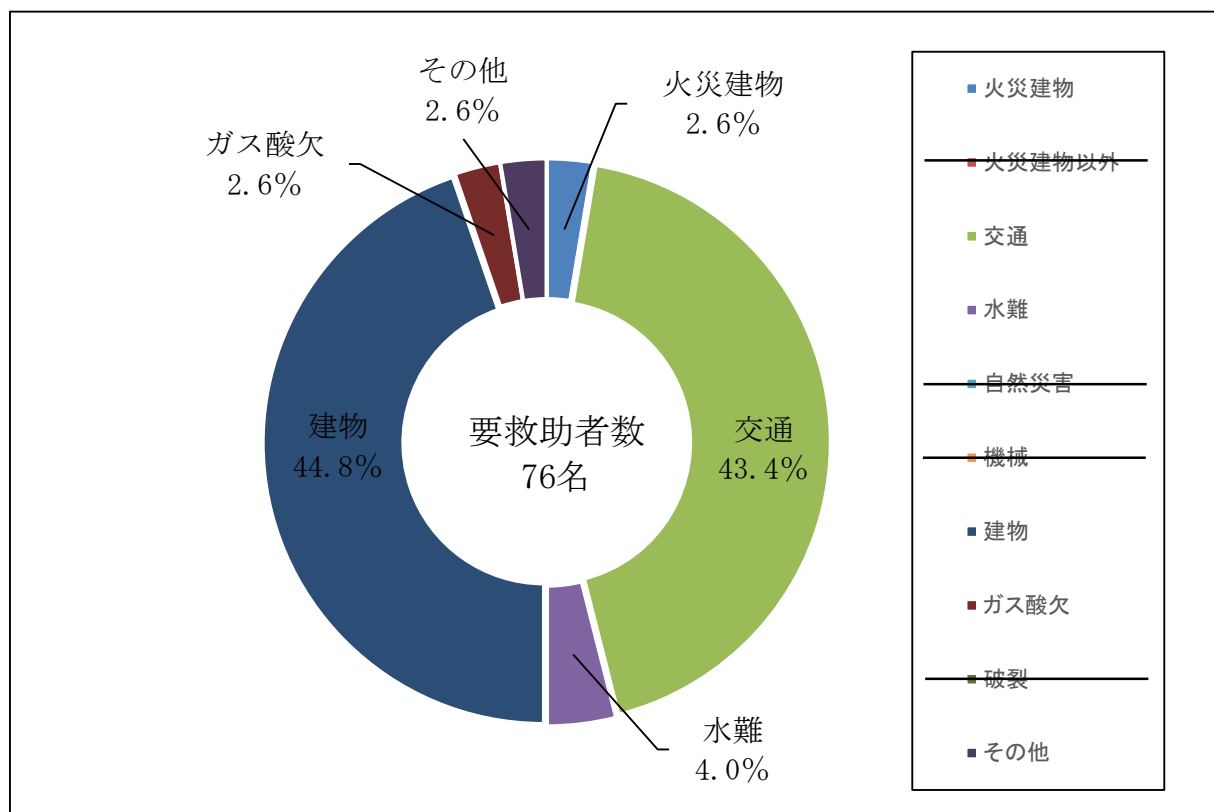


表5－1 災害別傷病程度

	死亡	重症	中等症	軽症	無し	合計
火災建物				2		2
火災建物以外						0
交通	3	5	8	17		33
水難	1	1			1	3
自然災害						0
機械						0
建物	2	4	11	11	6	34
ガス酸欠	1		1			2
破裂						0
その他			1		1	2
	7	10	21	30	8	76

死 亡…初診時において死亡が確認されたもの。

重 症…傷病の程度が3週間の入院加療を必要とするもの。

中等症…傷病者の程度が重傷又は軽症以外のもの。

軽 症…傷病の程度が入院加療を必要としないもの。

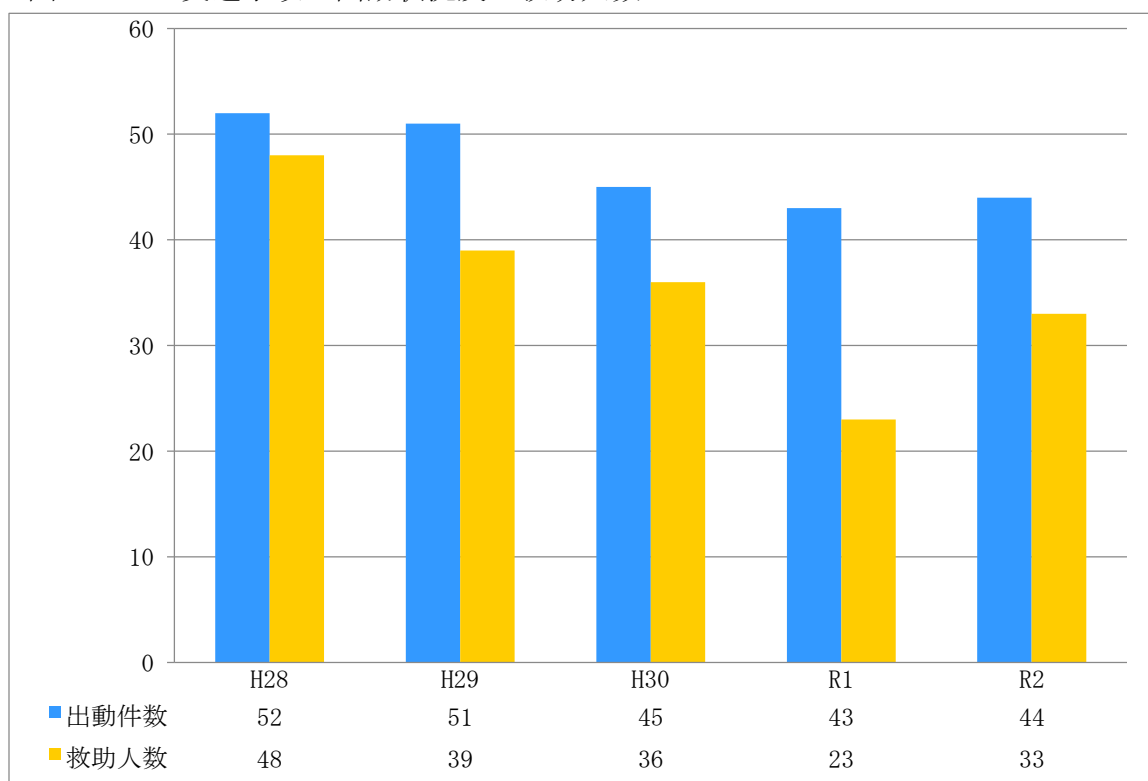
無 し…負傷無し、不搬送含む。

6 交通事故の出動状況

令和2年中の交通事故による救助出動は44件で、前年と比較して1件増加している。また、救助人数は33人で前年と比較し10人増加であった。（図6－1）

交通事故とは、すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単独事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したことなどによる事故をいう。

図6－1 交通事故の出動状況及び救助人数



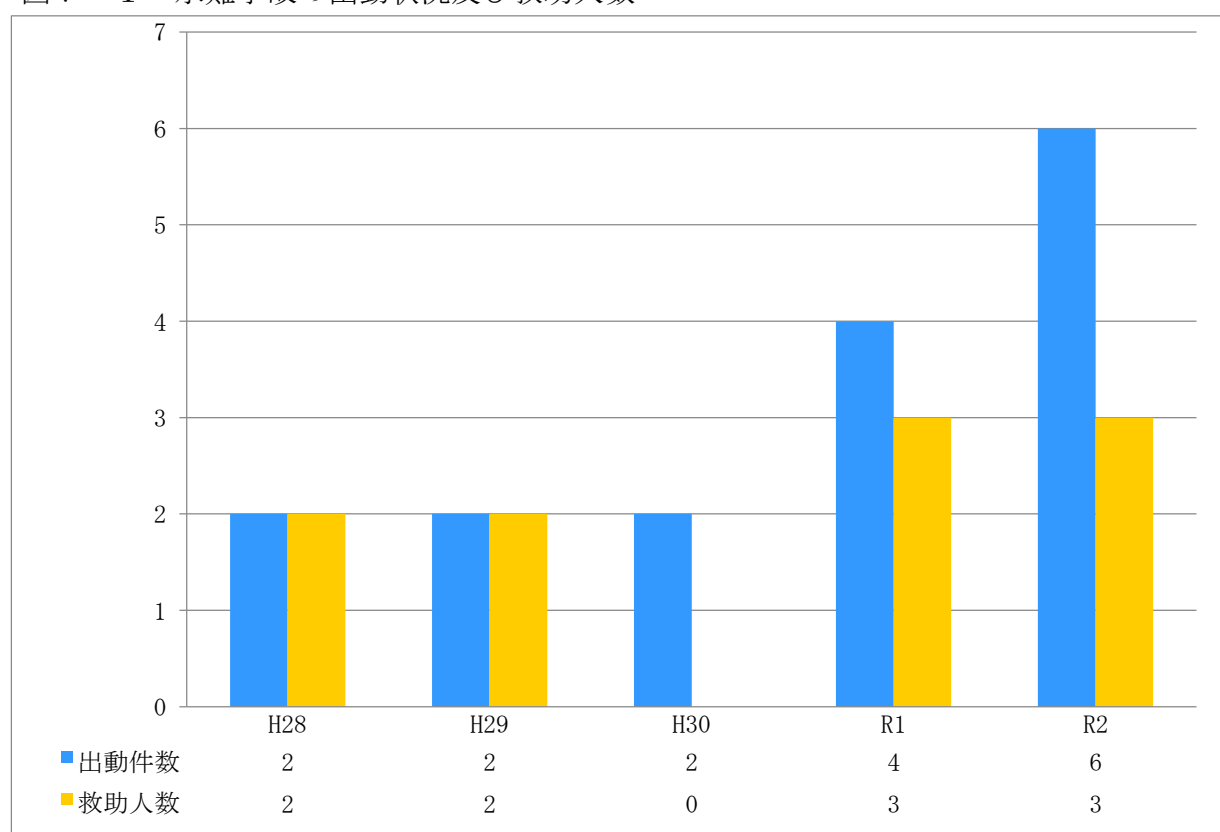
7 水難事故の出動状況

令和2年中の水難事故は6件で、前年と比較すると2件増加し、救助人数は3人で前年と同数であった。（図7－1）

水難救助業務は、平成30年4月1日より水難救助隊から消防署救助課へ移管し、救助工作車による即時出動を可能とした水難救助体制となった。これにより、当消防組合の管轄区域内における水難救助事故対応は、救助隊、消防隊、救急隊及び指揮隊による対応となる。

水難事故とは、水泳中の溺者又は、水中転落等による事故をいう。

図7－1 水難事故の出動状況及び救助人数

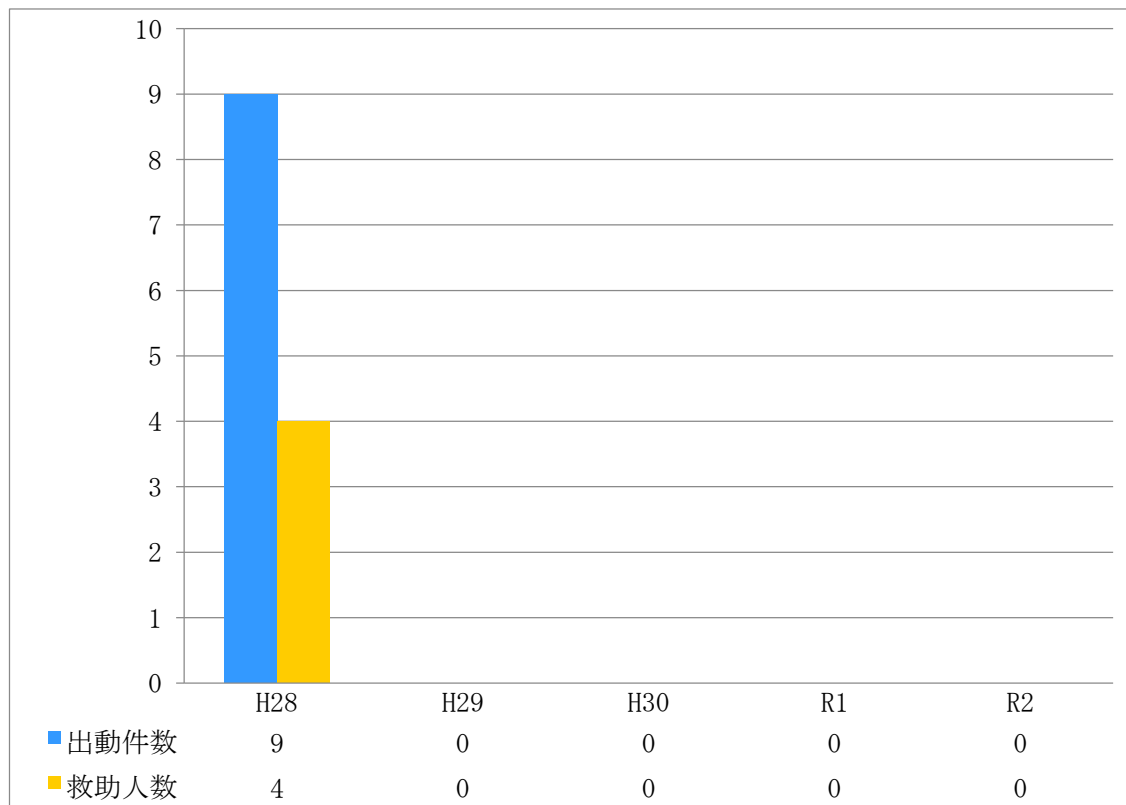


8 風水害等自然災害の出動状況

令和2年中の自然災害事故は3件であったが全て警戒出動であり、救助出動はなかった。（図8－1）

風水害等自然災害事故とは、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、雪崩、地滑り、その他の異常な自然現象に起因する災害による事故をいう。

図8－1 自然災害救助の出動状況及び救助人数

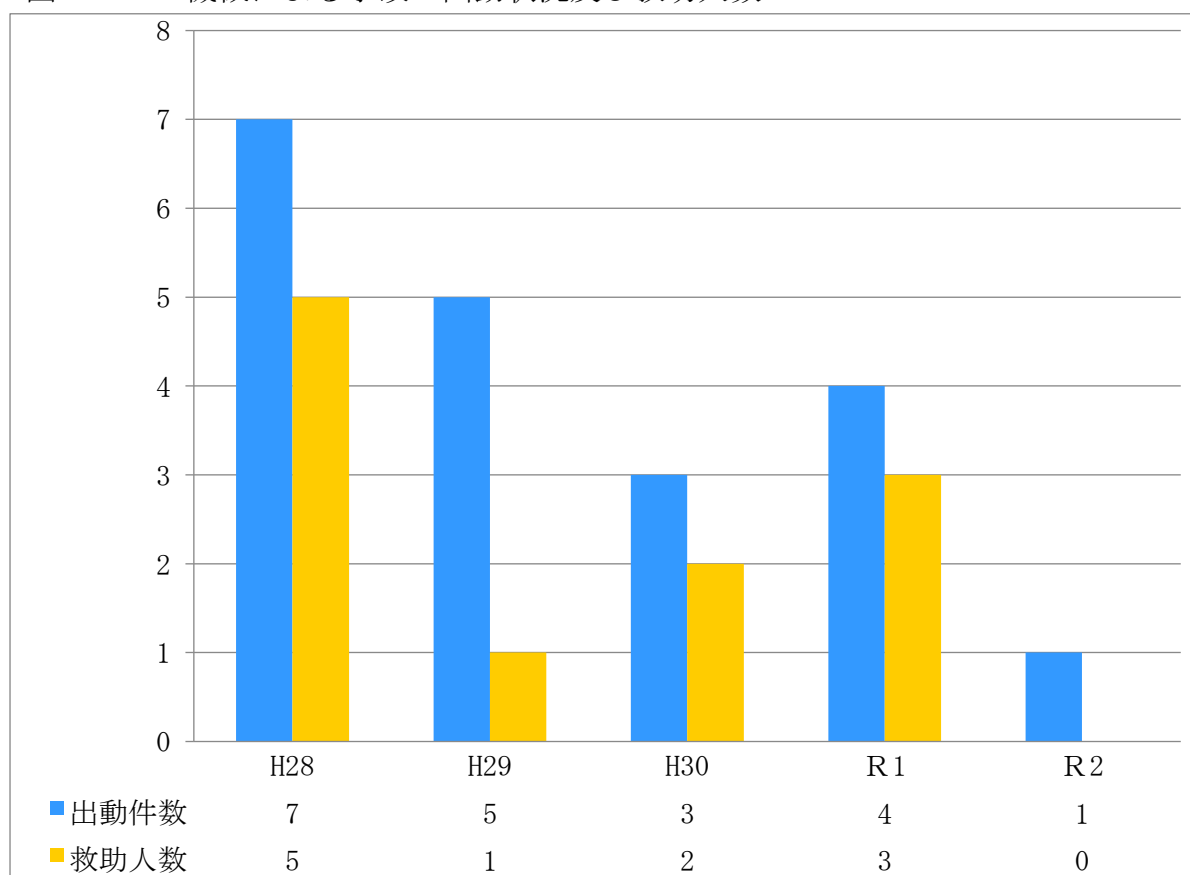


9 機械による事故の出動状況

令和2年中の機械による事故は1件で、前年と比較すると3件減少し、救助人数は0人で3人減少している。（図9－1）

機械による事故とは、エレベーター、エスカレーター、農業用機械、プレス機械、塵芥収集車、ベルトコンベアーその他の建設機械、工作機械等による事故をいう。

図9－1 機械による事故の出動状況及び救助人数

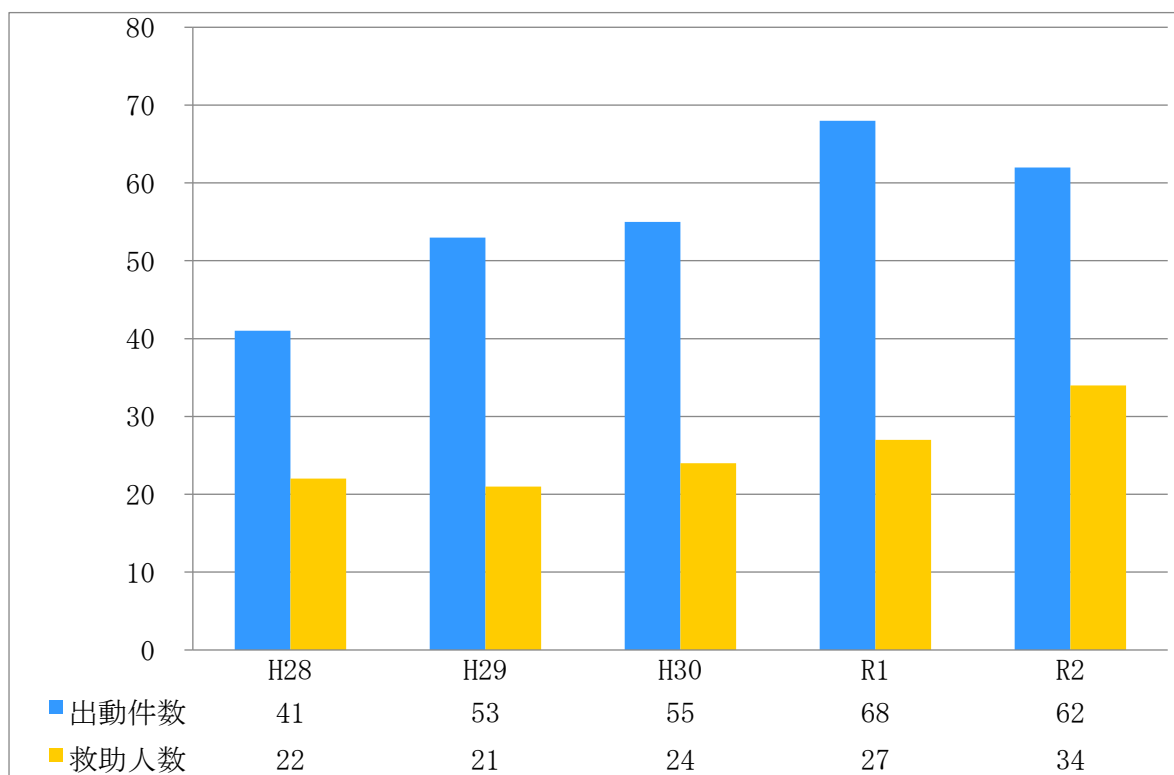


10 建物等による事故の出動状況

令和2年中の建物等による事故は62件で、前年と比較すると6件減少し、救助人数は34人で7人増加している。（図10－1）

建物等による事故とは、建物、門、柵、塀等建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故などをいう。

図10－1 建物等による事故の出動状況及び救助人数



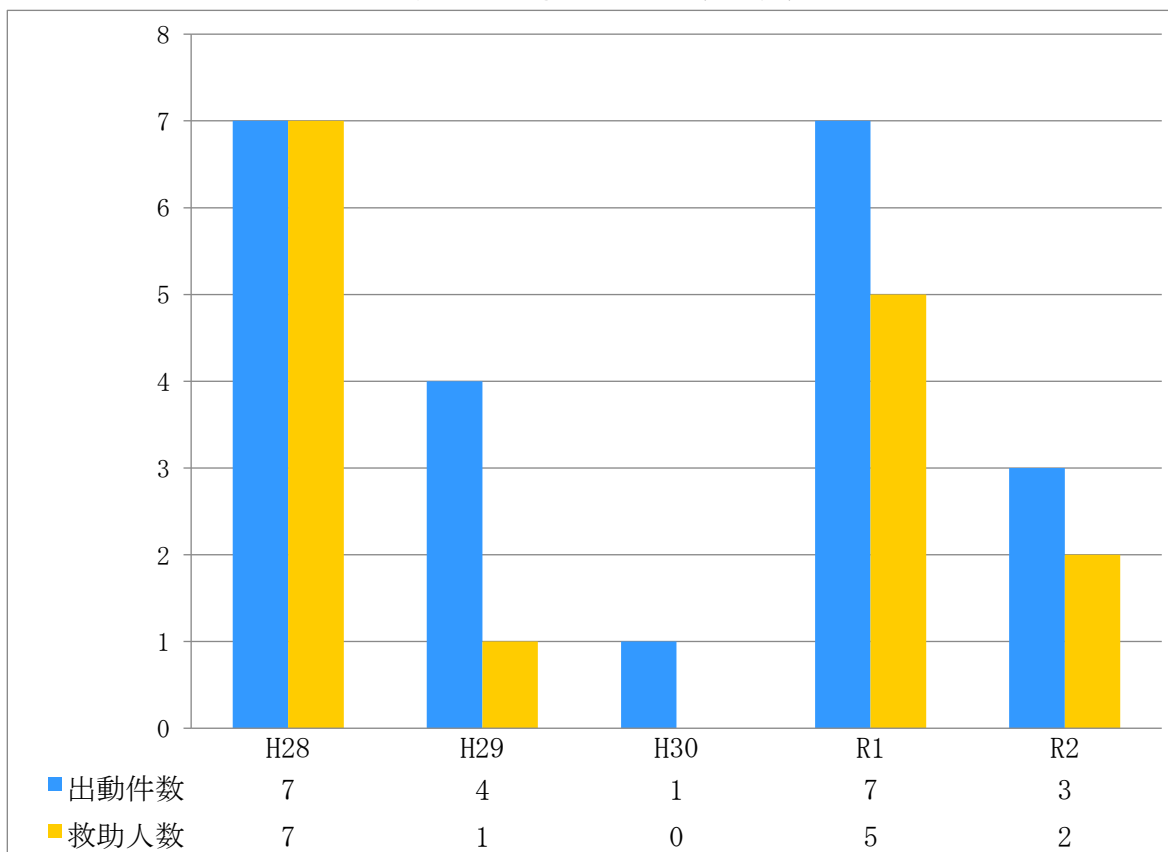
11 ガス及び酸欠事故の出動状況

令和2年中のガス及び酸欠事故は3件で、前年と比較すると4件減少し、救助人数は2人で3人減少している。（図11－1）

ガス及び酸欠事故とは、一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故、酸素欠乏による事故をいう。

※車両、建物内の練炭等による事故も含まれている。

図11－1 ガス及び酸欠事故の出動状況及び救助人員



12 その他の事故の出動状況

令和2年中のその他の事故は4件で、前年と比較すると10件減少しており、救助人数は2人で5人減少している。（図12－1）

その他の事故とは、交通事故、水難事故、機械による事故、建物等による事故、ガス及び酸欠事故、破裂事故に掲げる事故以外の事故で、消防機関による救助を必要としたものをいう。

図12－1 その他の事故の出動状況及び救助人数

